

整理番号	02-1027
区分 (事務局記入欄)	☐ 臨床研究(☐ 受託・共同 ☐ 院内) ☒ その他
	☐ 医薬品 ☐ 医療機器 ☒ その他

医学研究に関する情報公開文書

西暦2025年 8月 26日

研究課題名	ナブパクリタキセル+ゲムシタビン併用療法を施行した進行膵癌患者における肝転移個数の予後予測因子としての意義
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 10 月 1 日 ~ 終了 西暦 2026 年 12 月 31 日 (予定)
研究の対象となる方 (予定症例数)	2015 年 1 月~2024 年 7 月に当院で 1 次化学療法としてナブパクリタキセル+ゲムシタビン併用療法を施行した 103 人の進行膵癌と診断された患者
研究の目的・方法	[目的] 進行膵癌患者に対する 1 次治療 ナブパクリタキセル+ゲムシタビン併用療法 (AG) を施行された患者における肝転移個数の予後予測因子としての意義は明らかではない。そのため、本研究では、この患者集団における肝転移個数の予後予測因子としての意義を検証する。 [方法] 2015 年 1 月から 2024 年 7 月までに当院にて 1 次化学療法として AG を受けられた進行膵癌患者 103 名が対象です。造影 CT にて肝転移個数を評価し、肝転移を認めない、1-9 個の肝転移を認める、10 個以上の多発肝転移を認める、の 3 群に分類し、統計学的手法を用いて、全生存期間、臨床的背景を比較し、肝転移個数の予後予測因子としての意義を検証します。
研究に用いる試料・情報の種類	年齢、性別、既往歴、化学療法導入日、等のカルテ情報
問い合わせ先	・ 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ・ ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 ・ また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 地方独立行政法人市立東大阪医療センター 研究責任者：臨床腫瘍科 <副部長> 家出 清継 住所：大阪府東大阪市西岩田三丁目 4 番 5 号 TEL:06-6781-5101